

本学大学院生がベトナム・ハロン湾で環境活動

更新日：2011年11月1日

授業の一環で初めての海外派遣

本学は、学部・大学院の一貫教育として、[実践型の環境人材育成のための教育プログラム](#)を開設しています。その中の大学院「国際環境活動特別演習」における授業の一環として、平成23年8月～9月に世界遺産に登録されているベトナム・ハロン湾に11名の大学院生(博士前期課程)を派遣しました。本教育プログラムとしては初めての海外派遣です。

活動内容	派遣期間	派遣者
マングローブの植林	平成23年8月11日(木)～17日(水)	梅井貴行、梅原圭太、小野林佑典(以上、工学研究科)
水上村における環境教育	平成23年9月19日(月)から25日(日)	篠原大揮、谷岡俊彦、西 亘、丹羽悠斗(以上、工学研究科)
ハロン湾の水質調査	平成23年9月19日(月)から25日(日)	伊野波真倫、増井嘉彦、望月博章(以上、工学研究科)、古川貴裕(生命環境研究科)

マングローブの植林チーム～ハロン湾の人々と堺市立堺高校生と共に～

ベトナム・ハロン湾では、大阪府立大学と公益財団法人地球環境センター(GEC)が協働で実施している[JICA 草の根技術協力事業—ハロン湾環境プロジェクト](#)による環境活動と連携して、8月13日(土)に現地の大学生や水上村の親子などの方々と協力して、総勢76名が4班に分かれて約5,000本のマングローブの植林を行いました。

本学の大学院生は、各班のリーダーとして当日の植林作業を統率するだけでなく、前日の激しい雨の中での植林準備作業や、翌日の事後チェック、補植作業など、毎日早朝(5時～6時)宿舎出発の強行スケジュールの中、本活動の中心的役割を果たしました。

ハロン湾からの帰路、ベトナム国家大学ハノイ校を訪問し、同大学の学生達と情報交換を行うとともに、ハノイ市内を視察するなど、交流を深めました。

また、この大学院生の派遣に併せて、堺市立堺高等学校からも5名の生徒が参加し、力を合わせて、マングローブの植林を行いました。



環境教育チーム ～水上村小学校における環境教育～

環境教育チームは、水上村の小学生を対象に、環境意識を高めることを目的とした授業を行いました。

ハロン湾は彼らの生活に必要な不可欠であるにもかかわらず、徐々に汚染されている現状が見過ごされています。それは環境調査を行わないため、海がどれだけ汚れているか認識しづらいからだと考えています。そこで私たちは、小学校周辺の水深や水の透明さ、海の流れなどの測定を体験してもらうことを、大切なハロン湾を守る意識を育むきっかけとして位置づけました。

授業内容は、環境モニタリングの必要性和各測定項目の説明、測定機器の工作与測定実習の大きく二つに分かれています。前者では、自分たちの生活においてハロン湾がどれほど大切でかけがえのないものであるかを問いかけながら、いまできることとして環境モニタリングを取り上げて説明しました。後者では環境モニタリングを

実感してもらうため、子供たち一人一人に簡易な測定機器を作ってもらい、各々で測定できるように配慮しました。また、測定実習では実際の測定を子供たちに手伝ってもらいながら、モニタリングの方法と機器の使い方を体得してもらいました。

授業では、子供たちはとても素直で真剣に取り組んでくれました。特に測定実習は盛り上がり、あまりにも子供たちが1箇所に集まりすぎて、水面に浮かんだいかだが傾くほどでした。

環境モニタリングは、継続してもらうことがとても重要です。本プロジェクトではヒアリング調査や水上コミュニティの先生を対象とした講義にも同行させていただき、水上村での教育活動に深く関わることができました。



環境調査チーム ～ハロン湾の水質調査～

近年、世界遺産に登録されているハロン湾では観光産業などによる水質の悪化が懸念されています。世界自然遺産は、環境が悪化すると登録を抹消されてしまいます。そこで、私たち環境調査チームでは、世界遺産に登録されているハロン湾の水質調査を行いました。

私たちは、二日間にわたり海水の試料を採取しました。一日目は、沿岸部およそ 15km にわたり、汚染物質の分布および汚染源を調べるため、簡易調査を行いました。二日目は、観光開発に着目して、ホテルからの生活排水の影響を調べました。観光ホテルが密集している沿岸から 2 km ごとに 4 ポイント、延長線上の汚染が少ないと考えられる 1 ポイントの計 5 ポイントで、海水の試料を採取しました。海水の採取地点までの移動途中では、多数のごみや油が浮遊していることを確認しました。海上での試料採取・調査は、海流などの影響や船酔いによりダウンする者が現れるなど困難でしたが、途中からは全員慣れたのか、スムーズに作業を行い、ボートでの移動を楽しんでいました。

採取した試料については、ハロン湾管理局のオフィスで、COD(化学的酸素要求量:人為起源の有機物による水質悪化の指標)の分析を試みましたが、設備上の問題があったため断念し、後日、ベトナム国家大学ハノイ校において再分析をすることに決定しました。ハノイ校では、ボイ教授や現地の学生の方々のご協力を得て、分析を行うことができました。

今後も、調査を続けていくことで、開発の影響をより正しく把握していくことができると考えられます。

